

第三者機関による環境アクションレポートの審査

環境アクションレポートの記載内容の信頼性を高めるため、2002年から株式会社トーマツ環境品質研究所による第三者審査を、本店環境部に加え、事業所においても受審しています。



事業所審査（せんたい）（川内原子力発電所）

1 審査状況報告

2005 九州電力環境アクションレポートの審査状況報告

株式会社トーマツ環境品質研究所は、九州電力株式会社の「2005 九州電力環境アクションレポート」に記載されている重要な環境情報の正確性について、第三者審査を実施しました。

この審査の過程において気付いた事項を「環境アクションレポートに対する第三者意見書」とは別に、以下のとおり報告します。

なお、下記の記載事項の（ ）書きは、「2005 九州電力環境アクションレポート」の参照ページです。

1 評価できる事項

(1) 環境活動コストの将来計画について

今年度より経営資源の最適配分を目的として環境活動コスト配分に係る将来計画を策定している。これは、環境活動コストの投資判断基準に基づき投入するコストと効果の最適化のために環境会計を積極的に活用していくことにより、経営資源の配分効率化を図るとともにステークホルダーへの今後の環境情報の提供としても優れた試みであると考える。(P.21 参照)

(2) 各ページの用語説明について

今年度から巻末の用語集とは別に環境アクションレポートの各ページの袖に各記事に関連する用語の説明が付されるようになっている。読者が環境アクションレポートを読み進めていく上で適宜参照できるようになっており、利便性が向上している。

(3) ステークホルダーコミュニケーションについて

第4部として環境アクションレポートや環境保全活動に対する内外の評価結果とともにその対応状況の記載を充実させており、ステークホルダーコミュニケーションへの積極的な姿勢が表れている。

2 検討を要する事項

(1) 環境情報の正確性確保について

環境会計において一部の事業所で当年度の投資に関わる減価償却費の集計に漏れがあった。環境アクションレポートの早期作成に向けて業務フローの見直しを通して誤りの起こりにくい状況が整備されつつあるが、さらに環境情報の正確性を目的とした内部統制の整備・運用についても積極的に検討されることが望ましい。

以上